

まちづくりに関する提案

「サッカータウン福岡と地域密着型スポーツ空間」

福岡には現在 J2 リーグのアビスパ福岡があり、高校サッカーの分野では、東福岡（高校選手権優勝）、東海第五（高校選手権ベスト4）、筑陽（高校選手権準優勝）といった全国でも屈指の名門校が存在する。また、遠い昔の日本サッカーリーグの時代は、新日鉄八幡のサッカー部が全国にその名をとどろかせていた。こうやって考えると、福岡は立派なサッカーの街と思える。

しかし、現実には、アビスパ福岡は、もとは他県から誘致した中央防犯サッカー部が母体であり、地域に完全に密着しているとは、言いがたい。もちろん、関係者の努力により、年々地域密着型のチームとなっていると思うが、福岡にはもうひとつのプロスポーツ球団で、圧倒的な人気と実力を誇る福岡ソフトバンクホークスがあり、それとの差は非常に大きい。

ホークスは地行地区にホームスタジアム（ヤフードーム）とホークスタウンがあり、隣接してリゾートホテルも存在する。「野球」というプロスポーツを中心とした、ひとつのベースボールパークが形成されている。

これに対して、アビスパ福岡のホームスタジアムは、福岡空港に隣接した東平尾運動公園内にある「博多の森球技場」である。このスタジアムは、ユニバーシアード福岡大会のために築造された球技専用スタジアムであり、収容人数、構造的にも非常に立派なスタジアムである。スタジアムは立派であるが、その周辺はどうかというと・・・。

貧相であると言う他ない状況である。まず、交通機関の不便さがあげられる。福岡空港までは地下鉄で行くことができるが、そこから球技場までは、バス、タクシー、あるいは徒歩での移動を強いられる。最もよい解決策は地下鉄の延伸である。

また、周辺は東平尾公園に囲まれ、緑が豊富であり、その点の環境はすばらしいが、地域に密着するための設備、施設、環境が非常に貧弱、それどころか皆無の状況である。

Jリーグチームであるアビスパ福岡を地域密着型のプロスポーツ球団として盛り上げ、かつ、福岡が実はサッカー王国である！という地域性から、博多の森球技場を中心としたスポーツパークを作り上げてはどうだろうか。

博多の森球技場は、福岡空港のすぐ隣に位置している。この空港周辺の土地を見渡してみると、そこらじゅうに空地があるではないか。もちろん、その土地は空地ではなく、空港の敷地内であったり、空港の騒音を避けて住民等が退去した跡地であろうが、この土地を有効に利用して、サッカータウンを造れないだろうか？空港のそばなので建物はいろいろと制約があるだろうが、グラウンドを造るだけでも十分なのである。そこに芝生のグラウンドを数コート造るだけで、そこは福岡版サッカータウン、あるいは、福岡版サッカーの聖地となる可能性がある。福岡近郊で芝生のグラウンドは数が非常に少なく、サッカーに関わる人たちはほとんどが土のグラウンドを利用している。日本の文化では、芝生は、その上でなにかスポーツをするという習慣が昔からなかった。演劇を「芝居」というように、芝の上に居ながら座って観るという文化である。芝のグラウンドは確かにお金がかかる。管理も大変である。しかし、その芝のグラウンドを、プロサッカーチームのホームスタジアム周辺に作ることで、サッカーファンにとっては、その地域一体が、サッカーの街として認知されるはずである。グラウンドだけでも十分だが、できればアビスパのクラブハウスや一般利用者のための休憩施設等も建物もほ

しい。空港の近くなので高さに制限はあるだろうが、1階建ての建物で十分である。ホークスタウンのような商業的な施設はいらないのである。純粹にサッカーを楽しめるような施設だけつくればいいのである。

アビスパ福岡には福岡市も出資している。であれば、公共性のあるものとして、福岡市が出資して事業を行えばよい。特定のプロチームにお金を出すことに問題があると言われるかもしれない。そうならないように、博多の森にある、テニス場、陸上競技場、プール、体育館も含めて、もっと地域の人にオープンで、使いやすく、交通アクセスも良好な、ひとつの街として計画、整備すればいいのである。

実現には問題だらけだと思うが、せっかくのプロサッカーチームと、この理念が地域密着型を目指すものであり、福岡がサッカー王国であることを考えれば、今のアビスパのホームスタジアム「博多の森球技場」周辺を現状のまま放置しておくことは、非常にもったいないことだと思う。Jリーグの100年構想のように、100年かかってもよいから、スポーツが地域と密着したオープンな街が博多の森を中心として実現したら、素晴らしいと思う。

以上

●Jリーグ百年構想～スポーツでもっと幸せな国へ～

Jリーグは、理念の具現化とスポーツの重要性、これからの課題を多くの方々に理解していただきたいと考え、1996年から『Jリーグ百年構想』をスローガンにした理念普及活動を展開しています。2003年には、芝生をモチーフにしたキャラクター「Mr.ピッチ」を登場させ、各種プロモーションを展開しています。

現在、全国の学校では芝生のグラウンドが増えてきています。子供たちが緑の芝生の上を裸足で走り回り、元気に遊び、スポーツを楽しめる環境は、『Jリーグ百年構想』の理想とする姿です。

Jリーグと各クラブは今後も、「地域に根ざしたスポーツクラブ」を目指して、地域の人々とともに、幅広い活動を展開していく方針です。

(Jリーグ公式ホームページより)